

筑波経済月報 No.156 2026.7

■ 企業探訪

アクリルショップ「はざいや」から無限の可能性を発信する

株式会社菅原工芸

■ 支店長のわがまち紹介

行財政改革の成果を未来への投資に

鹿嶋市

■ 常陸時代の佐竹氏 - 500年の軌跡を追う - (第27回)

常陸国に残った佐竹氏家臣

■ 経営インフォメーション

中小企業に求められる情報セキュリティ

■ 健康経営のすすめ

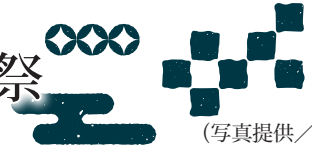
茨城県の健康経営認定制度

筑波総研 株式会社





鹿島神宮 式年大祭 御船祭



(写真提供/鹿嶋市)



陸上渡御列(2014年)



鹿島立ちの大行列(2014年)



鹿島神宮神幸祭の山車(2025年)



大提灯が練り歩く提灯まち(2025年)

12年に一度の荘厳・華麗な祭典

たけみかづちのおおかみ

鹿島神宮は、日本建国・武道の神様である武甕槌大神を御祭神とする、神武天皇元年創祀の由緒ある神社です。年間90を超える祭儀の中で、壮麗さと規模ともに最大の祭典が御船祭であり、全国の御船祭の中でも最古最大です。今年、12年に一度、午年に執り行われる御船祭の年に当たります。

鹿島神宮の御船祭は、およそ1700年前の応神天皇の御代から現代まで脈々と受け継がれてきました。その昔、鹿島は船団の航行によって栄えた古代東国文化の要衝であり、鹿島の大神を奉ずる当時の人々の足跡を伝えるのが御船祭です。午年に行なわれるのは、十二支が一巡すること、また午の方角・時刻は陽性が最も盛んなことから、あらゆる邪気と不景気を祓う願いが込められています。

前回は2014年9月1日から3日にかけて、天皇陛下の御遣いである勅使をお迎えしての例祭に続き、御祭神が約3,000人の大行列・約120艘の大船団と共に、陸路・水路合わせて30km弱の道程を巡幸しました。

今年も9月1日午前10時の例祭から始まります。午前4時半より提灯まちの神事、午後8時から神幸祭で御分霊を乗せた御神輿が行宮へ渡御します。

翌9月2日の午前8時に行宮を出発し、約2,000人の供奉員による「鹿島立ち」の陸上大行列が一路大船津へ。御神輿を奉載した龍頭で飾り付けた御座船は約80隻の供奉船を従えて鰐川から浪逆浦をへて香取市加藤洲の斎杭まで進みます。正午頃に対岸の潮来河岸で御迎祭が行われ、それを終えると船団は帰途につき、午後4時半に楼門前に到着します。

9月3日午前10時に行宮祭、午後3時に御神輿を本宮に還す還幸祭が行われ、大祭は終わりを告げます。

期間中は大祭を盛り上げるため様々な奉祝行事が行われ、町内では山車が引き出され祭りを彩ります。

■ 鹿島神宮

茨城県鹿嶋市宮中2306-1

* 神幸行列のルートや観覧ポイントは地図をご参照ください。

* 9月2日は無料シャトルバス・JR臨時特急・臨時普通列車の運行が予定されているほか、駐車場の大幅な変更や国道51号線封鎖を含む大規模な交通規制も行われますので、お越しの前にホームページでご確認ください。

<https://kashimajingu.jp/feature/御船祭/>

◆ お問合せ

鹿島神宮

電話050-1724-5007

